

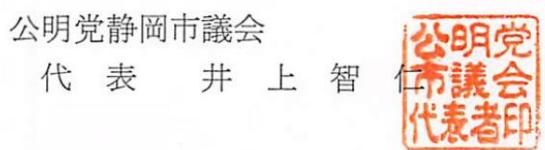
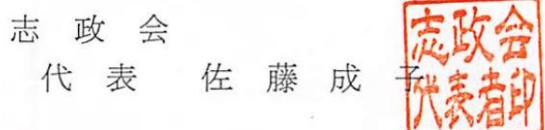
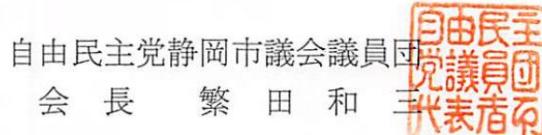
新たな静岡市総合計画の策定について (申し入れ)



令和8年1月15日
自由民主党静岡市議会議員団
志政会
公明党静岡市議会

令和8年1月15日

静岡市長 難波喬司様



新たな静岡市総合計画の策定について(申し入れ)

難波市長におかれましては、日頃から市政発展のためにご尽力をいただき、敬意と感謝を申し上げます。

さて、第4次静岡市総合計画(以下4次総)については、本年2月定例会への上程に向け、昨年4月に、その見直しに着手され、先頃、見直しの内容にかかるパブリックコメントが行われたところであります。

主たる見直しの内容については、加速する人口減少や、生成AIを始めとする知能革命、脱炭素社会に向けた地球規模の課題への本格的な対応など、ここ数年で、世の中は大変革期を迎えており、これらを前提に、政策・施策体系が再構築されております。

また、計画期間も、現計画の8年間に對し、見直し後は10年間となっており、現計画の始期である2023年から起算すると、通算で13年間という長期計画となつております。

さらに、人口目標についても、2050年に54万人以上とするのが適切との考えが示されたところであります。

こうして改めて概観してみると「世界に輝く静岡の実現」という4次総の根幹となる考え方は堅持されつつ、時代の流れや現実を直視した上で、必要にして十分な見直しがなされており、我々各会派としても理解し納得するところであります。

一方で、このような大幅な内容の変更は、もはや見直しではなく、新たなまちづくりにつながる新総合計画の策定ではないのかというのが、我々を含め大方の市民が抱く印象かと思われます。内容が大幅に変更されているにもかかわらず、タイトルが「第4次静岡市総合計画」のままでは、かえって市民が違和感を覚えるのではないかと危惧するところであります。

これまでも、見直しに当たっては市民目線を重視するよう強く求めてきましたが、計画の内容の分かり易さはもとより、名称についても、誰もが共感し受け入れ易いものにすべきであります。

こうした観点から、例えば、54万人という人口目標についても、人口増加の施策を更に展開することによって、直近の社人研将来推計人口(約54.6万人)を下回らない数値である55万人以上とすることも検討すべきではないかと考えます。

今後、市民に示す静岡市の総合計画については、誰もが分かり易く、親しみの持てるものとなることを改めて求めるとともに、既存計画（4次総）の見直しではなく、新たな総合計画としての旗幟を鮮明にされることを、三会派の総意として申し入れます。